

## 2017年度 湘南藤沢学会「研究助成基金」 成果報告書

### European Chapter Meeting of the Tissue Engineering and Regenerative Medicine International Society 2017

慶應義塾大学 環境情報学部 環境情報学科 4年 曲田捷人

#### 1. 活動日程・会場

日程：2017年6月26～30日

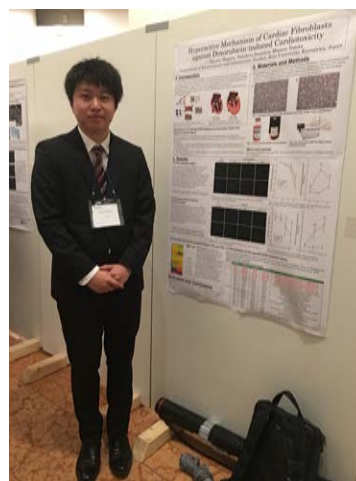
会場：The Modern Davos Conference Centre, Davos, Switzerland

#### 2. 活動目的

本活動の目的は、スイスのダボスで開催される国際学会「European Chapter Meeting of the Tissue Engineering and Regenerative Medicine International Society 2017」のポスターセッションで発表することです。この学会には1000～1300人の研究者が集まり、普段の研究やこれからの活動などを発表し合い、次の研究に生かすために学会です。ですので、この学会に自分も参加することで、多くの意見をもらい、自分の実験・研究に生かす良い機会になります。

#### 3. 活動成果

本学会では、「Hyperactive Mechanism of Cardiac Fibroblasts against Doxorubicin-induced Cardiotoxicity」というタイトルで発表しました。虚血性心疾患などにより、壊死した心臓組織には線維芽細胞が大量にリクルートされ、病的な働きを起こします。しかし、その原因は未だに解明されていません。本実験には、実際に抗がん剤で使用されるドキソルビシンを使用し、マイクロアレイ解析を行いました。そして、心臓の線維芽細胞の中から心臓内の毒性ストレス耐性を持ち、かつ、心臓組織の再生を誘発するある遺伝子を発現した心臓線維芽細胞を特定しました。そして、今回の学会発表で、世界中の再生医療の研究者に自分の研究を見ていただき、多くのご意見を頂きました。一番多かった意見は、候補遺伝子の候補の絞り方や、今回判明した実験



結果の解析方法などでした。普段は同じ研究会の中の人からしか意見を頂くことができないので、非常に参考になりました。また、今回の学会発表を通して、多くの外国の方や、日本に他の大学の方と意見の交流を行い、今までに無い考えや実験方法について議論を交わすことができました。そして、実際に外国の方に英語で自分の研究について説明を行うことで、人前に発表することや、英語で質疑応答することに対する技術が向上したと思いました。

#### 4. 今後の展望

今回の学会での発表を通して、自分の研究について多くの方と意見を交流でき、この経験を生かしたいと感じ、もっと多くの方とディスカッションをできるように英語力を上げていこうと思いました。そして、研究に関しては、実際に指摘されたことをすぐに実験に実践したいと考えております。また、他の研究者の方が発表されていた研究内容や自分の研究に非常に近い人たちのポスターセッションに参加することで、多くの実験方法や研究結果について議論することができたので、今後の研究に生かしていきたいと考えております。

#### 5. 謝辞

本学会参加にあたり、資金面で援助を与えてくださった湘南藤沢学会に厚く御礼申し上げます。